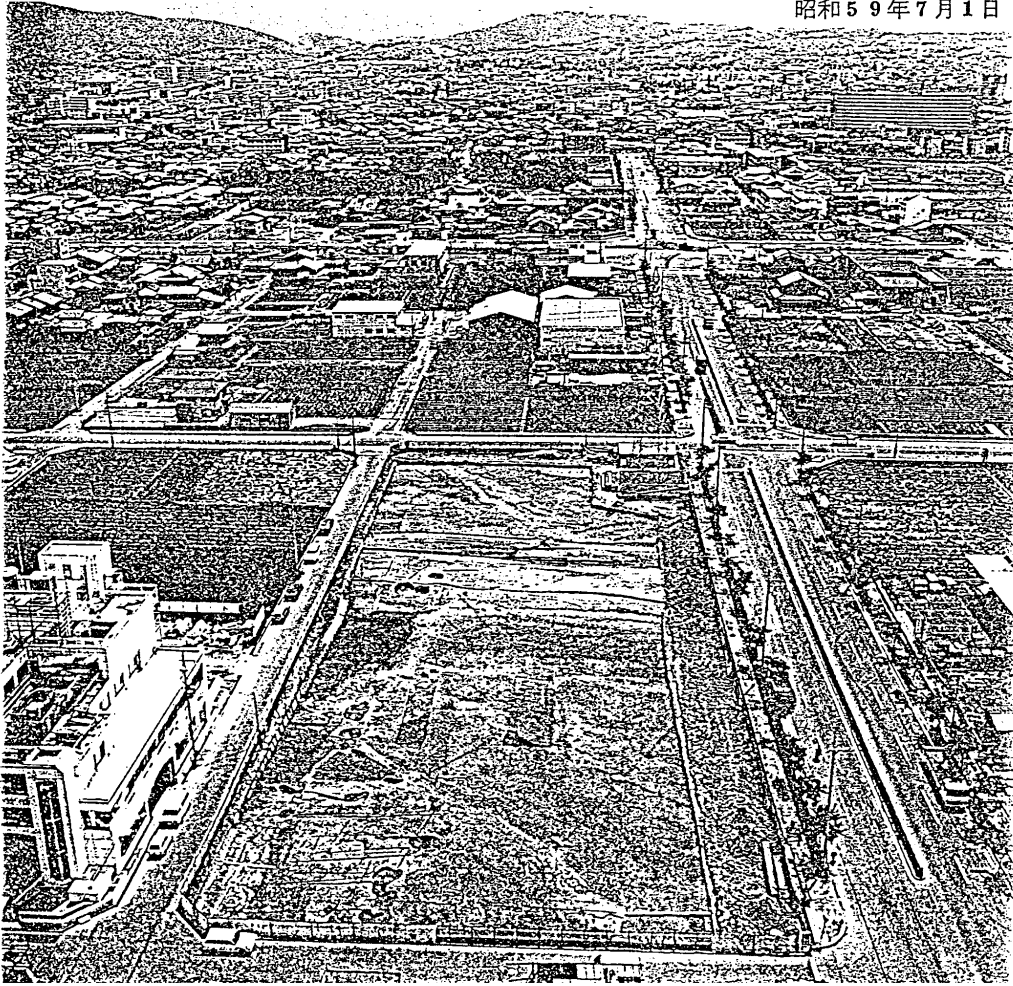
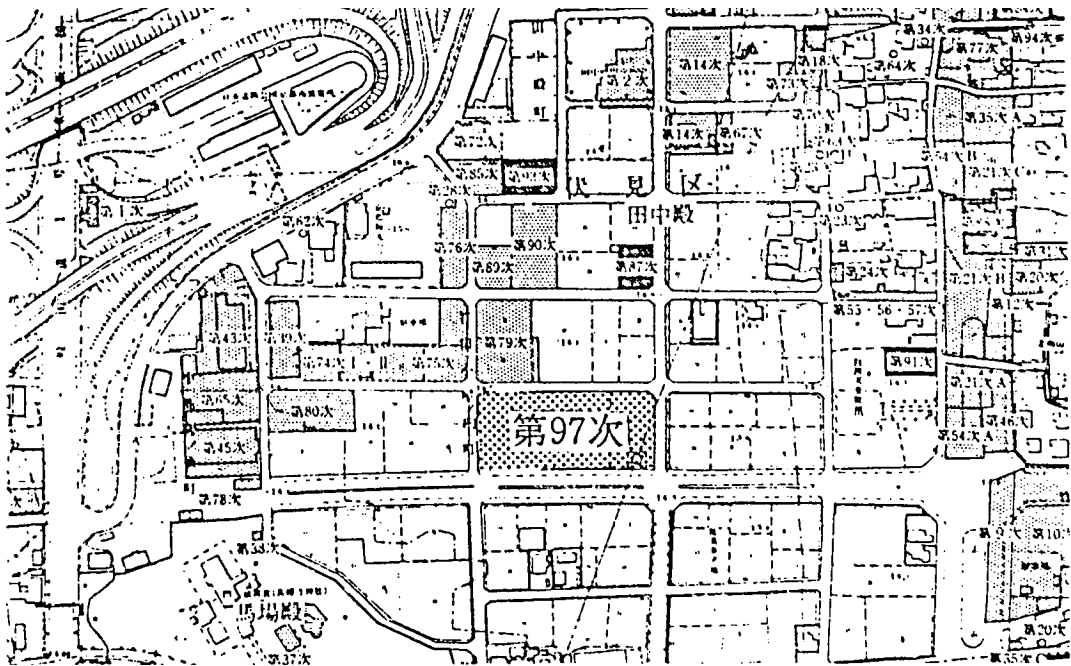


鳥羽離宮跡第97次発掘調査現地説明会資料

昭和59年7月1日



財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市埋蔵文化財研究所では、京都市伏見区竹田小屋ノ内町において、第97次調査を昭和59年4月8日から開始した、調査は現在も継続中である。今日までに田中殿に造営されたと推定される建物や庭園遺構が明らかになった。

## 1 遺構の概要

現在までに確認した遺構は、鳥羽離宮関係の建物跡2棟や庭園遺構、溝跡などである。

S B — 1 この建物跡は、第75次、第76次調査によって建物の北半部を確認し、今回の調査では南端及び南東隅を確認した。その結果、この建物の規模は、桁行5間、梁行4間で、4面に縁の付く礎石建物であることが明らかになった。この建物基壇は、礫と粘土を交互に積みあげた掘り込み地業によって構築されている。

S B — 2 東西1間、南北4間以上の礎石建物である。柱間寸法は、東西3.6m(梁間)、南北2.4m(桁行1間)間隔である。礎石抜き取り穴には、礎石に利用されたと考えられる花崗岩の風化剝落したものが認められた。

S G — 3 南北方向に広がる池跡で、第79次調査で検出したものと同様のものである。池の西岸及び水中に点々と庭石を配置しているほか、西岸、S B — 2に近く舟着き場と考えられる石組みもある。また、東岸には石組が検出され、滝跡と推定される。

S G — 4 S B — 2の南側に検出された浅い池である。池の水際は直線的で北端部分は直角におさめられ矩形の状にある。その両岸には2個1組の庭石が4箇所も配置されている。

S D — 5 南北方向に伸びる素掘りの溝である。溝の幅は北にゆくに従って狭くなる。滝跡へはこの溝から水を流していたものと考えられる。

S B — 6 庭の区域をかぎるように南北にわたり、築地跡と思われるものである。

なお、それより東方部分は、自然流路のあったことを示す砂利の流れを見る。

## 2 出土遺物

出土遺物には、土器、瓦、木製品、金属製品などがある。最も大量に出土したのが瓦である。土器は、平安時代から鎌倉時代にかけての土師器、瓦器などが少量出土している。瓦は播磨産のものが主流をなし、讃岐産と考えられるものが若干認められている。今回の出土遺物の中で注目されるのは飾り金具で、種類及び点数も多い。これらの遺物は、ほとんど池の泥土から出土している。

